

どういんがくとや ていしんたいのように がくせいも
ぶきをつくるのを てつだい たくさん ぎせいになった。
おとなたちは こどもたちを ひっして たすけようとしたけれど
いっとんもある おおきな ばくだんや しょういだんが
あめのように ふってきて だれのほねか わからないくらい
くだけてしんだ。うみのちかくの ちかごうに にげこんだ
こどもたちも ちょくげきをうけ しんだ。
じゅんこくのとうは そのひとたちの れいを まつるためのもの。
みんな、こんなせんそう いやだよね。

めいにちも ほんも ひがんも ここに おまいりに こないと
きもちが おちつかないという おばあさんに あったよ。
しずかに いのる すがたが わすれられない。

